

小学校で実習を行う教育実習生のための 教育実習自己評価シートの開発

長谷川 順一 ・ 田村 道美 ・ 山岸 知幸 ・ 大嶋 和彦*
(数学教育) (英語教育) (附属教育実践総合センター) (附属高松小学校)

山西 達也* ・ 石井 都* ・ 住田 恵津子* ・ 仲西 長代* ・ 河田 祥司*
(附属高松小学校) (附属高松小学校) (附属高松小学校) (附属高松小学校) (附属高松小学校)

樽本 導和** ・ 西岡 由都** ・ 小西 寛*** ・ 北村 篤子****
(附属坂出小学校) (附属坂出小学校) (観音寺市教育委員会) (丸亀市立郡家小学校)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

*760-0017 高松市番町5-1-55 香川大学教育学部附属高松小学校

**762-0031 坂出市文京町2-4-2 香川大学教育学部附属坂出小学校

***768-8601 観音寺市坂本町1-1-1 観音寺市教育委員会

****763-0093 丸亀市郡家町790-1 丸亀市立郡家小学校

Development of a Teaching Practice Self-Assessment Sheet for Student Teachers at Elementary School

Junichi Hasegawa, Michiyoshi Tamura, Tomoyuki Yamagishi,
Kazuhiko Oshima*, Tatsuya Yamanishi*, Miyako Ishii*,
Etsuko Sumida*, Osayo Nakanishi*, Shoji Kawada*,
Michikazu Tarumoto**, Yoshikuni Nishioka**,
Hiroshi Konishi*** and Atsuko Kitamura****

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

**Takamatsu Elementary School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University,
5-1-55 Ban-cho, Takamatsu 760-0017*

***Sakaide Elementary School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University,
2-4-2 Bunkyo-cho, Sakaide 762-0031*

****Kanonji Education Board, 1-1-1 Sakamoto-cho, Kanonji 768-8601*

*****Gunge Elementary School, 790-1 Gunge-cho, Marugame 763-0093*

要 旨 教育実習生が用いる教育実習自己評価シートを作成し、附属小学校での教育実習で使用した。実習終了後、自己評価シートについての調査を実施したが、実習生からは肯定的な評価がやや多いものの、否定的な評価も寄せられた。実習生を指導している附属小学校教員からは、自己評価シートの継続的な使用を前提とした意見が寄せられた。これらを踏まえ、自己評価やそれを用いての教育実習生の指導のあり方について検討した。

キーワード 教育実習 自己評価 小学校主免実習 教員養成

1 はじめに

教育実習では、実習生が授業実践をはじめ教育活動・教育実践についてそれぞれ目標をもち、主体的に取り組めるようにすることが必要である。そのためには、教育実習生が、目標に照らして自身の教育活動・教育実践を反省的に捉えるとともに、達成できた項目とそうでない項目を明確にするなど、自己評価が行える手だてを講じることが重要である。そこで、学部教員と附属学校教員が協働し、教育実習生が実習期間中に用いる教育実習自己評価シートを開発することとし、学部・附属学校園の共同研究プロジェクトとして計画的に取り組んだ。2008年度には、基礎的な資料を得ることを目的として香川大学教育学部附属高松小学校において調査を実施した（長谷川他，2010a）。その結果を踏まえ、次年度には2種類の教育実習自己評価シートを作成し、附属高松小学校で試行的に実施した（長谷川他，2010b）。2010年度には、教育実習自己評価シートの使用を香川大学教育学部附属高松小学校及び附属坂出小学校の2校に拡大し、自己評価シートを教育実習生に用いるよう促すとともに、使用方法について実習生及び実習生の指導教員である2校の附属小学校教員の意見を収集した。

本稿では2010年度の教育実習自己評価シートの実施概要を紹介し、教育実習自己評価シートに対する教育実習生の意見及び教育実習生の指導に当たっている2校の附属小学校教員の意見を報告する。また、それらを踏まえ、教育実習における自己評価のあり方及び今後の検討課題に言及する。

2 教育実習自己評価シート

教育実習自己評価シートは、「教育実習全般に関する自己評価シート」と「授業の実施に関する自己評価シート」の2種類を作成した。前者は教育実習生が行う教育実践・教育活動を60ほどの項目として示し、1週間の活動を振り返って数値で示された5段階の内の該当箇所に

○印をつけるようにしたものである（A4用紙4ページ、A3用紙両面に印刷）。そのため、教育実習生には教育実習開始第1日目に本シートの紹介も兼ねて記入させ、その後は連休の週を除く毎週末に記入を求めようとした。後者は授業を実施後に記入するものであり、教材研究、指導案の作成、授業の実施の3観点から授業を振り返るようにしたものである。それら3観点について、例えば「児童の実態把握」「教科書の内容理解」などの見出しをおき、文章で記載された4段階の内の該当箇所に○印をつけるようにした（A4用紙3ページ、授業実施日、教科名、本時の目標などを記入する1ページのフェースシートを含め全4ページ、A3用紙両面に印刷）。

教育実習生及び附属小学校の教員には、自己評価シートは教育実習での目標を明確化することが目的であり、教育実習の評定とは無関係であることを説明した。その上で、記入を促すため、教育実習全般に関する自己評価シートについては、週末に記入したものを翌週はじめに集めるようにした。授業の実施に関する自己評価シートについては、授業実施後に記入し授業討議を行う際の資料の1つとして、例えば指導教員が実習生に、なぜその項目に○印をつけたかを問うなど、できるだけ活用するよう指導に当たる附属小学校教員に依頼した。

図1、図2は、2010年度に同一の教育実習生が記入した自己評価シートを示したものである（部分；教育実習時期の後半部に実習生が記入したものであるため比較的評価が高い。なお、図1のシートでは数値が大きくなるほど自己評価は高くなる。図2のシートではAが最も高い評価である）。

これらの2種類の教育実習自己評価シートは、前年度に用いたものと活字の書体の相違などを除き同一であるので、詳細については前年度の報告を参照されたい。また、次年度には附属中学校での使用を念頭において、2種類の教育実習自己評価シートに修正を加える予定である。

D 学 級 経 営	①朝の会や帰りの会を運営・指導する	5	④	3	2	1
	②給食や清掃の指導をする	5	4	③	2	1
	③児童に公平に関わる	5	4	③	2	1
	④児童の出席や健康状態を把握する	5	4	③	2	1
	⑤学級や学校の行事などの場で児童の集団を指導する	5	④	3	2	1

図1 教育実習全般に関する自己評価シート（記入例：部分）

① 児童の実態把握・授業内容の理解・教材研究・教材作成

	D	C	B	A
児童の実態把握	授業観察や授業以外の場での児童の実態把握がなされていない。	授業観察や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして児童の様子を見取ろうとしているが、学級の大きな反応傾向を把握するにはいっていない。	授業観察や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして、本時の展開に関する範囲で、学級の大きな反応傾向を把握している。	授業観察や授業以外の場での児童の観察、必要な場合には調査を行うなどして、本時の展開に関する範囲で、個々の児童の反応傾向をおおよそ把握している。
教科書などの内容理解（教科の授業で教科書がある場合）	本時の授業に該当する教科書や教師用指導書を読んではいないが、その内容の理解が不十分である。	本時の授業に該当する教科書や教師用指導書を読み、その内容をおおよそ理解している。	教科書や教師用指導書を読み、本時の授業に必要な知識や技能を理解・習得している。	教科書や教師用指導書を読み、本時の授業に必要な知識・技能だけでなく、単元を通して、あるいは前後の学年で扱われる本時に関連する内容についても理解している。

図2 教育実習全般に関する自己評価シート（記入例：部分）

3 自己評価シートに対する調査

小学校主免教育実習最終日（10月上旬）に、2校の附属小学校で主免教育実習を行った3年次生46名（附属高松小学校28名，附属坂出小学校18名）を対象として2種類の教育実習自己評価シートの適切性などを問うアンケート調査を実施した。また、2校の附属小学校の教育実習部では、教育実習自己評価シートに対する附属小学校教員の声を収集した。以下では、教育実習生を対象とした調査の概要と結果、及び附属小学校教員の意見や指摘事項を報告する。

3.1 教育実習生を対象とした調査の概要

調査の対象者及び実施時期は、上に述べた通りである。調査用紙の配布と回収は、それぞれの小学校の教育実習部が行った。なお、回答は無記名で求めた。設問はA4用紙1枚に記載されており、冒頭には、この調査は2種類の教育実習自己評価シートの改善を目的として実施するものであることなどが記載されていた。続く

以下のような設問を示し、2種類の教育実習自己評価シートに対する評価について選択回答を求めるとともに、その理由を記述する欄を設けた（以下では、選択回答の記入欄や理由の記述欄は省略する）。

設問：以下の質問について、あてはまると思う番号1つを選び、□の中に書いてください。理由欄には、選択理由を具体的に記述してください。記述欄が不足する場合は、裏面に記述してください。また、改善点などの提言があれば、それも書いてください。

1-1. 「教育実習全般に関する自己評価シート」について聞きます（60余りの項目について、達成の程度を5段階で自己評価するシートです）。この自己評価シートは、あなたが教育実習を行う上で有用あるいは効果的でしたか。

①有用あるいは効果的だった
②どちらかというとも有用あるいは効果的だった

た

- ③どちらともいえない
- ④どちらかというと有用でも効果的でもなかった
- ⑤ほとんど有用でも効果的でもなかった

1 - 2. 教育実習全般に関する自己評価シートについて、上で、その番号を選択した理由を具体的に記述してください。

2 - 1. 「授業の実施に関する自己評価シート」について聞きます（4段階で示された文言について、あてはまる欄に○をつけるものです）。この自己評価シートは、あなたが教育実習を行う上で有用あるいは効果的でしたか。（選択肢は設問1 - 1と同じであるので省略する）

2 - 2. 授業の実施に関する自己評価シートについて、上で、その番号を選択した理由を具体的に記述してください。

3. 卒業後の進路希望について、下の①～⑧の中から1つ選んで、その番号を□に書いてください。

- ①採用試験の可否に関係なく、どうしても教師になりたい。
- ②卒業時の採用試験に合格すれば教師になるが、不合格の場合は他の職に就く。
- ③教員採用試験は一応受験するつもりだが、第1希望の職種は別にある。
- ④教員以外の仕事に就きたいので、教員採用試験は受けなつもりだ。
- ⑤小、中、高、特別支援学校、幼稚園などの教師になることをめざして大学院などの進学を考えている。
- ⑥上記⑤以外のことを目的にして大学院などの進学を考えている。
- ⑦未定
- ⑧ その他

上記の卒業後の進路希望についての設問と選

択肢は、香川大学教育学部附属教育実践総合センターが教育実習生などを対象として調査を行う際に継続して用いてきたものである。

3. 2 教育実習生を対象とした調査の結果

(1) 卒業後の進路希望

表1は、設問3の卒業後の進路希望についての結果を表したものである。表1で、選択肢番号の後に「 」書きした文言は、各選択肢の内容を短縮して示したものである。

表1 卒業後の進路希望

選択肢	人数 (%)
①「どうしても教師」	28 (60.9%)
②「できれば教師」	6 (13.0%)
③「一応受験」	5 (10.9%)
④「教員以外」	1 (2.2%)
⑤「教員大学院」	2 (4.3%)
⑥「教員以外大学院」	0 (0.0%)
⑦「未定」	3 (6.5%)
⑧「その他」	1 (2.2%)
合計	46 (100%)

教職を志望していると考えられる「①どうしても教師」「②できれば教師」「⑤教員大学院」の選択回答者の割合は8割弱であり、かなり高い。直接的な比較はできないが、2001年に香川大学教育学部学校教育教員養成課程3年次生を対象として実施された卒業後の進路希望に関する調査の結果をみると、「①どうしても教師」39.0%、「②できれば教師」22.8%、「⑤教員大学院」5.7%であり、教職志望者の割合は7割弱である（教育実習終了後の10月中旬の調査結果。調査対象は小学校サブコース生（小学校主免生）だけではなく、学校教育教員養成課程の全ての学生を対象としている（長谷川他、2004）。なお、同報告には他の年度の「どうしても教師」「できれば教師」の割合がグラフで示されているが、それらと比較しても、表1に示された教職志望者の割合は高いといつてよい）。

(2) 自己評価シートに対する評価

表2、表3は、それぞれの教育実習自己評価

シートについての有用性・有効性に関する5段階での選択回答と、8選択肢によって問うた卒業後の進路希望の結果をクロス集計したものである。

教育実習自己評価シートに対する肯定的回答である「①有用あるいは効果的」あるいは「②どちらかという有用あるいは効果的」を選択したものの割合をみると、教育実習全般に関する自己評価シートについては39.1%、授業の実施に関する自己評価シートについては50.0%で後者の方が若干多い。否定的な回答（④あるいは⑤の選択）については、教育実習全般に関する自己評価シートは30.4%、授業の実施に関する自己評価シートは21.7%であり、授業の実施に関する自己評価シートの方が否定的回答が若干少ない。但し、2種類の教育実習自己評価シートに対する教育実習生の選択回答の分布に、有意な差はみられない（2種類の自己評価シートの「合計」の行からなる2×5の分割表に対するカイ2乗検定の結果： $\chi^2(4)=1.34$, ns；なお、2種類の自己評価シートの選択回答について、相関係数は0.58であった）。教職志望の学生の中にも、肯定的に受け止めているものと、否定的に受け止めているものの2群が存在することは興味深い。

表2 教育実習全般に関する自己評価シート

	①有用あるいは効果的	②どちらかという有用・効果的	③どちらともいえない	④どちらかという有用でも効果的でもない	⑤ほとんど有用でも効果的でもない	合計
①どうしても教師	5	7	5	7	4	28
②できれば教師	1	2	2		1	6
③一応受験			4	1		5
④教員以外					1	1
⑤教員大学院		1	1			2
⑥教員以外大学院						
⑦未定		1	2			3
⑧その他		1				1
合計	6 13.0%	12 26.1%	14 30.4%	8 17.4%	6 13.0%	46 100%

表3 授業の実施に関する自己評価シート

	①有用あるいは効果的	②どちらかという有用・効果的	③どちらともいえない	④どちらかという有用でも効果的でもない	⑤ほとんど有用でも効果的でもない	合計
①どうしても教師	7	6	9	5	1	28
②できれば教師	1	3	1		1	6
③一応受験		3	1		1	5
④教員以外					1	1
⑤教員大学院		1		1		2
⑥教員以外大学院						
⑦未定		1	2			3
⑧その他		1				1
合計	8 17.4%	15 32.6%	13 28.3%	6 13.0%	4 8.7%	46 100%

(3) 選択理由の概要

選択回答の理由の記述については、前回の調査と同様の傾向がみられた。すなわち、教育実習自己評価シートを肯定的に捉えていたもの(①あるいは②を選択したもの)は、自己評価シートの目的にそくした理由を記述していたが、否定的に捉えていたもの(④あるいは⑤を

選択したもの)は、記入するための時間的余裕のなさや日々の通常の反省会、授業検討会、あるいは指導教員からの指導や助言で十分であるなどの理由を記していた。以下にいくつかの例を示す(次の表の各文章の先頭に示した丸数字は、当該の学生の各設問に対する選択番号を表す)。

	教育実習全般に関する自己評価シート	授業の実施に関する自己評価シート
S1	①自分の授業のことや一週間の生活の振り返りをする事は、自分の成長にもものすごくつながると思うから。	①自分のまだまだ未熟な点を明らかにすることができ、次の授業に生かすことができるから。
S2	②1週間で自分で振り返ることで、記憶を呼び起こし次につなげられるようになった。自分が成長できた部分が見えると、うれしくなり、やる気が出た。	②1つ1つの授業を大切にできた。毎回指導を受けて、改善している部分が評価につながっているようで、少しずつであるが、力がついてきていることを実感できた。
S3	③実習録や担任の先生と振り返り、自己を評価できたから。	③実習録で振り返れたから。
S4	④毎週の振り返りにはなったし自由記述のところは先週の自分と比べての成長ぶりがうかがえた。しかし、質問内容がよく分からないものの中にはあり、わざわざ時間をとってすべきかは分からなかった。それなら、「1日の振り返り」で充分反省できたと思う。	④4段階で評価するのは選択肢が少なかったように思う。自分があてはまるものがなく、困ってしまったものもあった。丸をつけるだけの反省ではなく、自分で言葉にしたり文章にしたりした方が頭にも残りやすいし、しっかり振り返りができると思う。
S5	④1日の反省会や授業後の協議で十分だと思う。記入する時間的余裕もない。	④指導の先生からも意見をもらっているもので、それで十分だと思う。

3.3 附属小学校教員の意見

2校の附属小学校教育実習部では、教育実習自己評価シートに対する附属小学校教員の意見や指摘事項を集約した。以下では、各附属小学校教員から寄せられた意見を全て示す。

- ・授業後に自分を振り返ってチェックしたのは、よかった。○を付けるだけなので負担にもならないし、授業で考えていかなければならないことが分かり、授業を重ねるごとにその必要性を実感できていたようである。
- ・学生が自ら自分の1週間で客観視して振り返ることができる。その結果自分をメタ認知することにも繋がり、実習期間中の生活を改善する姿が見られた。
- ・実習生が授業を振り返り、次の授業ではどのような点に留意して授業を行えばよ

いか、自主的に考えるきっかけとなっていた。

- ・教員が自分の指導が学生にどの程度伝わったのかを見取ることができる。結果を参考にしながら学生への指導の改善に活かすことができた。
- ・一日の授業の反省会を学級で行う際、実習生が自分の授業を振り返るための視点となっていた。
- ・学生が自分自身を評価する内容と、教員がその学生を見取る内容を比較することで、学生自身が自分を過大評価するのか、過小評価するのかを捉えることができた。特に過小評価する学生には、「自信をもたせる」ように指導する等の工夫ができた。
- ・自己評価シートは、実習生が忙しくて担任が見ないうちに提出されていることがあった。担任を経由して回収するように

してもよいかもしれない。

- ・毎週末にこのシート（教育実習全般に関する自己評価シート）への記入を行うことにより、先週の自分と見比べて改善した点、低下した点を捉えることができ、自分を高めることができていた。
- ・個々の項目の内容が難しく、実習生自身が評価に苦慮していた。
- ・項目について、例えば「教科書以外の文献にあたって授業を組み立てたか」（授業の実施に関する自己評価シート）等は高度すぎる気もした。実習生の評価の実態と合わせて考慮すべきではないか。ただ、実習生が自分のことをメタ認知できる効果は、素晴らしかったように感じている。次年度は、実習生の評価が変わる（向上する）ような実習にしたい。
- ・毎週末に実施するとなると、学生の負担も大きい。特に採点授業に向けて追い込む時期等には、その時間を取ることもさえものが難しい状況になる。
- ・甘いつけ方が多かったように感じている。評価には関係ないことや自分を冷静に見つめることのできる力も必要であることを伝えていきたい。また、評価基準の具体を示したり、相互に評価し合う場も時にはもってみたいとしてもよいと思う。
- ・なかなか時間がなく、落ち着いてつける時間はないが、意識するよいきっかけになるので継続してはどうかと思う
- ・週によっては、評価できない項目がある。特に坂出学園は運動会に向けた練習期間と重なることもあり、かなりの比重が運動会練習にかかる週がある。こうした期間中に評価できない項目が増える場合がある。
- ・教育実習全般に関する自己評価シートのC「児童理解」-①“児童の発達についての心理学・教育学の知識をもつ”ことに関して、週単位で改善が見られるか疑問。同じく、D「学級経営」-①“朝の会や帰りの会を運営・指導する”ことについては、

教職員間で共通理解ができていない。もしこの項目を評価内容に入れるのであれば、担任教師間で実習期間中にこうした内容を体験させることへの共通理解が必要（他の項目も点検）。

- ・5段階での評価をすると「3」に評価をつける学生がどうしても多くなるので、4段階に改めてみてはどうか（ただし、週ごとの変容を見取ることが目的であれば5段階でも良いのではないか）。

全般的には、教育実習自己評価シートの継続的使用の観点から意見が述べられている。但し、自己評価シートの有効活用、それによる指導方法の改善などが検討課題として指摘されている。また、教育実習生の負担軽減や学校行事との関係も課題とされている。

4 考察

4.1 自己評価シートに対する意見

教育実習自己評価シートに対する教育実習生の選択回答の理由の記述、及び附属小学校教員からの意見や指摘は、次の3つに大別できる。

- (ア) 反省や目標の明確化を促すものであることから有効である
- (イ) 学校行事などには対応しない、教育実習中での改善は困難など、項目の改善が必要である
- (ウ) 記入するための時間的余裕がない、授業の検討会や指導教員による助言指導で十分である

以下では、これらの点について検討する。

(ア) について

教育実習自己評価シートは、教育実習生が教育実習中に実践したり実施したりすることが望まれる行動、保持することが望まれる態度傾向や知識・技能などのリスト、及びそれらに対する数値や文章などによる段階の表示からなる。そのため、教育実習生が教育実習で行う教育実

践や教育活動に省察を加えるとともに、翌日からの行動などに対する指針や目標を与えるものとなることが期待される。本プロジェクトは、そのような事項を目標として2種類の教育実習自己評価シートを開発したのであり、上記(ア)はそのような事項に対する肯定的な指摘を表す。

特に附属小学校教員からは、自己評価が促進されることへの肯定的な意見だけでなく、実習生の指導に教育実習自己評価シートを取り入れていることや、自己評価シートを用いての今後の指導のあり方に関する意見も寄せられた。

(イ) について

(ア)の意見にみられるように機能すれば、自己評価シートは教育実習の目的を達成するための有効な道具となる。それには、教育実習自己評価シートに教育実習中の望ましい行動などがリストとして網羅されている必要があるが、実際には教育実習中の行動などを全て列挙することは困難である。また各項目をチェックする時間を考慮すれば、リストに挙げられる項目数は少ない方が好ましい。そうすると、必要な行動などであってもリストには記載されていないものが生じたり、リストの項目が一般的抽象的な表現になり具体性を欠いたものとなるなども生じる。行動などのリストから構成される自己評価シートには、そのような問題が常に付随する。

(ウ) について

これは、自己評価シートは不要であるとの意見である。確かに、授業検討会や1日の反省会が充実しており、教育実習生が行った授業や教育実践・教育活動の検討が、その具体的な諸相にそくして行われれば、定型的な、それ故に個別の実践には必ずしも適合しない教育実習自己評価シートは不要であろう。そうであっても、教育実習自己評価シートには、次のような有効性や利点を考えることができる。教育実習全般に関する自己評価シートについては、同一の観点から定期的に教育実習での行動などを点検し

記録として保存できる。また、授業の実施に関する自己評価シートは、授業検討会で検討する観点や素材を提供するものとなる。これらの点は、自己評価シートをどのように用いるかにも関連している。この点について、さらに検討しよう。

4.2 2方向へのフィードバック

教師教育における反省的実践家モデルの提起を契機として、教育実践、あるいは教員養成における「反省」や「省察」の重要性が認識されるようになってきた(佐藤他, 1991; ショーン, 2001; 日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクト, 2004)。特に教員養成大学・学部での実地に基づいた授業科目では、教育実践・教育活動についてのフィールドワークとその検討や省察を組み合わせることによって、実践的な技法や教授スキルなどを習得させると同時に、それらの理論的背景などを明確化したり理論化を図ったりすることが重要である。さらにそこでは、教授スキルを反省的に検討することの必要性や検討する観点自体を検討の俎上に載せるなどを授業内容として組織化していくことが求められる。そのような授業科目では、《実践-実践に対する省察-実践に対する省察の省察》という3層から、授業内容や指導内容・方法などを構想することになる。

教育実習自己評価シートは教育実習生が教育実践や教育活動を点検するための道具であるが、それを用いることによって、次の2つの方向へのフィードバックの生起が期待される。1つは、明日からの教育実践や教育活動を構想したり目標を明確化したりすること、すなわち、当初から教育実習自己評価シートの目的としている事項である。もう1つは、教授スキルなどの理論的背景を検討するとともに、その検討の観点も相対化し検討しようとする方向であり、そこには、理論的検討を伴っての教育実習自己評価シートの各項目の適否の検討も含まれる。そのような2方向へのフィードバックの重要性については、例えば学部の授業の中で講じるだけでなく、教育実習生が実施した授業など具体

的な教育実践や教育活動にそくして2方向への進展を促す必要がある。また、教育実践や教員養成における「反省」や「省察」には、そのような2方向へのフィードバックがなされることも含まれていると考える必要があろう。教育実習生の指導が、そのような方向でなされることが求められる。

4.3 今後の検討課題

教育実習自己評価シートについての今後の検討課題として、次の事項があげられる。

- ①自己評価シートを用いた教育実習生の指導方法の検討
- ②附属中学校における主免教育実習での教育実習自己評価シートの使用
- ③教育実習自己評価シートの項目の精選
- ④大学・学部で教職を志望する学生に対して作成された「学びの履歴」や「教育実習の評価観点」などとの整合性

以下では、これらについて若干の説明を行う。

①自己評価シートを用いた教育実習生の指導方法の検討

この点については、前述したように2方向へのフィードバックを念頭においた指導法を開発する必要がある。このとき、例えばシートを回収しコメントを記入するといった従来の教育実習生の指導に、さらに新たな指導を加えることは妥当ではない。そうではなく、これまでも行われている2方向へのフィードバックを教育実習生が今まで以上に意識化できるよう、教育実習自己評価シートの各項目にそくして指導教員や学部教員が助言することが重要である。

例えば授業の実施に関する自己評価シートでは、教育実習生が授業について協議する際に、なぜそのように自己評価したかを指導教員とともに検討する。それを通して、当該の項目の意義や重要性、必要性などを、指導教員の支援のもとで教育実習生が検討したり実習生同士で議

論したりするなどをはじめ、様々な方法が考えられる。さらに、そのことによって、自己評価の有効性や有用性を教育実習生が意識化する、そのような指導方法の開発が望まれる。またこのような指導は、教育実習だけではなく、教育実践を扱う学部の授業科目においても意識的に取り上げる必要があろう。

②附属中学校における主免教育実習での教育実習自己評価シートの使用

2校の附属小学校で自己評価シートを使用してきたが、次年度には2校ある附属中学校での使用を検討したい。そのためには、小学校での教育実習を念頭において作成された教育実習自己評価シートの設問項目や文章表現などを点検し、小中学校で統一して用いることができるものへと修正する必要がある。そのような自己評価シートができれば、小学校及び中学校で主免、副免教育実習を行う教育実習生については、3年次、4年次にわたって同一の観点から自身の教育実習を自己評価し、振り返って検討する素材を得ることができるようになる。幼稚園や特別支援学校での教育実習で用いることができる自己評価シートの作成についても、今後検討する必要がある。

③教育実習自己評価シートの項目の精選

教育実習全般に関する自己評価シートは、60余りの項目から構成されていた。このシートは数値で示された5段階の該当箇所には○印をつけるものであるが、教育実習生や附属小学校教員からの指摘にもあったように、記入にはそれなりの時間を要するものであった。また、教育実習期間中には改善が困難な項目も含まれていた。さらに、趣旨は異なるものの、授業の実施に関する自己評価シートの設問項目との重複もみられた。それらを勘案し、より簡便に記入が可能になるよう、設問項目を精選する必要がある。

④大学・学部で教職を志望する学生に対して作成された「学びの履歴」や「教育実習の評価

観点」などとの整合性

教職指導の充実が求められ、また教職実践演習の開講を控える中で、本学では教職を目指す学生が1年次から用いるチェックシートである「学びの履歴」が作成され使用されるようになった。また、本学部の附属学校園で用いる教育実習の評価観点（教育実習生の評定の観点）が整備され学生にも公開されるようになった。そうすると、それらと2種類の教育実習自己評価シートの設問項目との関連や異同も問題となる。実際には齟齬を来すような項目はないものの、表現などに若干の差異もみられる。それらの調整も、検討する必要がある。

今後は、教育実習の指導のさらなる充実を期して、教育実習自己評価シートの検討を進める予定である。

文 献

- 長谷川順一・浅野文恵（2004）「学校教育教員養成課程3年次生の進路希望と教育実習イメージ」香川大学教育実践総合研究, 第8号, pp. 147-156
- 長谷川順一・井本正隆・田崎伸一郎・辻幸治・宮脇充広・高尾明博（2011）「教育実習生のパフォーマンスを評価する評価観点の開発研究（1）-3年次小学校主免教育実習生を対象とした基礎的調査とその結果-」香川大学教育実践総合研究, 第22号, pp. 1-12
- 長谷川順一・宮脇充広・大嶋和彦・石井都・住田恵津子・河田祥司・山西達也（2011）「教育実習生のパフォーマンスを評価する評価観点の開発研究（2）-自己評価シートの開発と試行-」香川大学教育実践総合研究, 第22号, pp. 13-24
- 日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクト（2004）「教員養成の『モデル・コア・カリキュラム』の検討-『教員養成コア科目群』を基軸にしたカリキュラムづくりの提案-」日本教育大学協会会報, 第88号, pp. 251-340
- 佐藤学・岩川直樹・秋田喜代美（1991）「教師の実践的思考様式に関する研究（1）: 熟練教師と初任教師のモニタリングの比較を中心に」, 東京大学教育学部紀要, 第30巻, pp. 177-198
- ドナルド・ショーン（2001）（佐藤学・秋田喜代美訳）

「専門家の知恵-反省的实践家は行為しながら考える」ゆるみ出版

付記

本調査研究は、香川大学教育学部の学部・附属学校園共同研究機構が行う2010年度の学部・附属学校園共同研究プロジェクトとして実施された。本稿の第12, 13執筆者は、本研究が行われた当時は附属坂出小学校に在職しており、協働して本研究に携わった。